

ヒメロス[®]

卵胞ホルモン剤

ご使用前にこの説明文書を必ずお読みください。
また、必要な時に読めるよう保管してください。

「ヒメロス」は、有効成分に卵胞ホルモン（女性ホルモンの一種で、エストロゲンともいいます。）である、エチニルエストラジオールとエストラジオールを配合した医薬品です。

卵胞ホルモンは主に卵巣から分泌され、いわゆる「女性らしさ」や「潤い」をつかさどるホルモンです。ところが、加齢やストレスにともない卵巣の機能が衰えますと、卵胞ホルモンの分泌も低下します。

そして、閉経期やストレスで卵胞ホルモンの分泌が急激に低下しますと、ほてりや発汗が生じたり、神経質になってイライラする、あるいは冷感症や不感症になるなど、さまざまな不定愁訴が生じます。これが婦人更年期障害です。また、閉経後は卵胞ホルモンがほとんど分泌されないため、性器の萎縮が生じて、性生活が困難になります。このようなときに「ヒメロス」を塗布しますと、不足した卵胞ホルモンが補充されて、上記諸症状の改善が期待できます。肝臓にやさしく、少量で卵胞ホルモンを皮膚から補充できることが特徴です。



使用上の注意

⊗ してはいけないこと

（守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなります）

1. 次の人は使用しないこと

- (1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (2) ご使用前に本剤をチューブから3mm程度出し、水又はお湯1～2滴でよくねり、内股など皮膚のうすい所に塗り、翌日に薬疹、発赤、かゆみ、はれなどが現れる人。
- (3) 次の診断を受けた人。
エストロゲン依存性悪性腫瘍（例えば乳癌、子宮内膜癌、卵巣癌）[本剤の有効成分は乳房や子宮の悪性腫瘍に罹患していた場合、その進行を早めるおそれがあります]、血栓症、心臓病、脳卒中、重度の肝機能障害、子宮筋腫、子宮内膜症、子宮内膜増殖症、てんかん
- (4) 家族あるいは本人に悪性腫瘍の病歴がある人。
- (5) 生理中の人、不正性器出血、陰分泌物（おりもの）のある人。
- (6) 妊婦又は妊娠している可能性のある女性、授乳婦。
- (7) 小児。

2. 次の部位には使用しないこと

- (1) 目や目の周囲、粘膜（口腔、鼻孔等）。
- (2) 外傷、湿疹、ただれ、炎症および化膿のひどい患部。

3. 本剤を使用している間は、次のいずれの医薬品および食品も使用しないこと

他の女性ホルモン剤、リファンピシン、抗てんかん剤、HIV逆転写酵素阻害剤、ステロイドホルモン、プロテアーゼ阻害剤、セイヨウオトギリソウ（セント・ジョーンズ・ワート）含有食品、イブリフラボン、グレープフルーツジュース

4. 使用者以外へ付着させないこと

- (1) ご使用後は石鹸とぬるま湯で手を十分に洗ってください。
- (2) 本剤を使用者以外の人に付着させないように注意してください。付着した場合は直ちに洗い流してください。
- (3) 塗布部が他の人と接触する可能性があるときは、塗布部を石鹸とぬるま湯で十分に洗い流してください。

5. 避妊の目的で使用しないこと

- (1) 避妊をご希望の場合は、適切な処置を強くお願いいたします。
- (2) 本剤のご使用により月経周期が変わる場合がありますので、オギノ式など規則的な月経周期や基礎体温を応用する避妊法は、お止めください。



相談すること

1. 次の人は使用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

- (1) 医師の治療を受けている人。
- (2) 薬などによりアレルギー症状（発疹・発赤、かゆみ、かぶれ、はれなど）を起こしたことがある人。
- (3) 次の診断を受けた人。

高血圧、腎臓病、高脂血症、胆嚢疾患、低カルシウム血症、糖尿病、肝機能障害、全身性エリテマトーデス、片頭痛

2. 次の場合は、直ちに使用を中止し、この説明文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

- (1) 使用後、次の症状があらわれた場合。

関係部位	症 状	関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ、かぶれ、はれ	消 化 器	吐き気、嘔吐、食欲不振
乳 房	痛み、緊満感	そ の 他	頭痛、むくみ、めまい、耳鳴り

- (2) 月経血の様子が著しく変調した場合。
- (3) ご使用期間中に生理又は不正出血が起きた場合。
- (4) 2週間位使用しても症状の改善がみられない場合。
- (5) 誤った使い方をしてしまった場合。

その他の注意

1. 本剤を初めてご使用される前に、乳房と子宮の検診をお勧めいたします。
2. 本剤を3ヶ月以上、続けてご使用になる場合は、6ヶ月に1回以上の頻度で乳房と子宮の定期検診をお願いいたします。

■ 効能・効果 ■

適応症 不感症、冷感症、不妊症、婦人更年期障害、婦人神経衰弱

- 【用語の解説】 婦人更年期障害： 加齢やストレスにともなう卵巣機能の衰えにより、女性ホルモンの分泌が低下することから生じる、様々な自律神経の失調症状（のぼせ、ほてり、冷え、イライラなど）。
- 婦人神経衰弱： 非常に強い精神的ストレスを受けたり、偏りのある食事や過度のダイエット等続けることにより、ホルモン分泌がアンバランスになって生じる症状。

■ 用法・用量 ■

大人量 用に臨み本剤の0.5g（大豆大）を指頭にとり、わずかな水分又は唾液でよく溶し、女子局部の粘膜に塗擦する。右用量を1日1～2回使用する。

【注意】

- (1) 定められた用法・用量を厳守してください。
- (2) 目に入らないように注意してください。万一、目に入った場合には、すぐに水又はぬるま湯で洗ってください。なお、症状が重い場合には、眼科医の診療を受けてください。
- (3) ご使用前には、手指をよく洗ってください。
- (4) 塗布部を清潔にしてからお使いください。
- (5) 外用にのみ使用してください。

■ 詳しいご使用方法(推奨) ■

- 1日1回（入浴後から就寝前）又は2回（朝と晩）、本剤をチューブ先端部から3～7mm（下図参照）ほど指先に出し、水またはお湯1～2滴でよくねって、女子局部の粘膜（膣内部）に塗ってください。
- 本剤の必要量には個人差が考えられますので、初めは1日3mm程度で試しながら、1日最大0.5g（1回につき約12mmを1日2回）まで、適宜増量してください。
- 生理終了後から2週間ご使用いただき、その後、次の生理が終わるまで、ご使用をお休みください。
- 閉経後の方や生理不順で長く生理が無い方は（妊娠中はご使用になれません）、すぐご使用になれます。2週間ご使用後、2週間以上ご使用をお休みください。
- 軽快していた症状が再発する場合は、再び同様の方法でご使用ください。



■ 成 分 ■

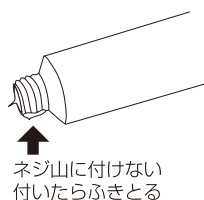
1g中に次の有効成分を含んでいます。

有効成分	1g中	本質
エチニルエストラジオール	0.2mg	合成卵胞ホルモン
エストラジオール	0.6mg	卵胞ホルモン

添加物として白糖、グリセリン、精製ラノリン、白色ワセリンを含有する。

■ 保管及び取扱い上の注意 ■

1. 直射日光をさけ、湿気の少ない涼しい所に密栓して保管してください。
2. 小児の手の届かない所に保管してください。
3. 他の容器に入れ替えないでください。（誤用の原因になったり、品質が変わることがあります）
4. 使用期限を過ぎた製品は使用しないでください。
5. 本剤が出すぎた場合は、チューブに戻さないでください。
6. 変色をともなう汚れの原因となりますので、ご使用後はチューブのネジ山部及びキャップ側のネジ山部に本剤が付着していないことを確認し、付着している場合は、きれいにふきとってからキャップを閉めてください。（右図参照）




— お問い合わせ先 —

大東製薬工業株式会社 お客様相談室

電話 0120-246-717

受付時間 9:00～12:00、13:00～17:00

（土、日、祝祭日、弊社休業日を除く）

製造販売元  大東製薬工業株式会社

山梨県甲府市川田町字正里624番地2（アリア207）

裏面もお読みください。